

今日のトピック 豪州のGDP成長率（2017年1-3月期）

足元は天候要因で不調だが、今後は再加速の見込み

ポイント1 前期に比べ鈍化 一過性の要因による

- 2017年1-3月期の豪州の実質GDP成長率は前期比+0.3%となり、市場予想（Bloomberg集計）と一致しましたが、前期の同+1.1%からは鈍化しました。
- 家計消費や在庫投資は順調に拡大したものの、住宅投資と輸出の落ち込みが足枷となりました。ただし、住宅投資と輸出の落ち込みは、サイクロンの襲来による輸送網の寸断などといった、一過性の要因によるところが大きいと判断されます。

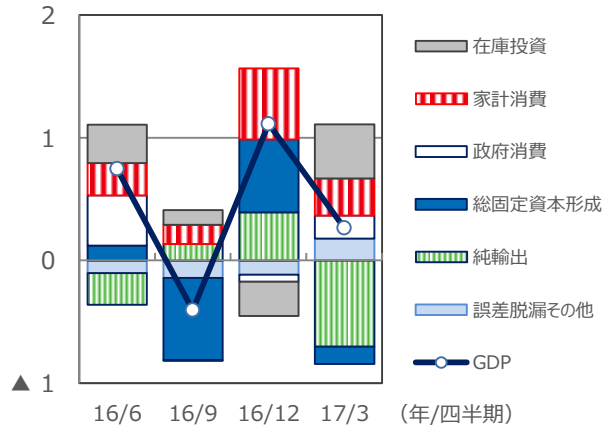
ポイント2 成長率は今後、加速へ 個人消費が引き続き牽引役

- 企業景況感が改善傾向にあるため、雇用は今後も順調に増加すると見られます。引き続き家計消費が景気拡大の牽引役になると予想されます。一方、資源価格が大底を打ったと見られることから、資源セクターの鉱業投資も最悪期を脱すると考えられます。
- 一過性の要因の影響が一巡するにつれ、豪州の成長率は緩やかに上向く見通しです。17年の年間では+2%台前半の成長となりそうです。中期的には政府によるインフラ（社会資本）投資の拡大が、景気の下支え役になると予想されます。

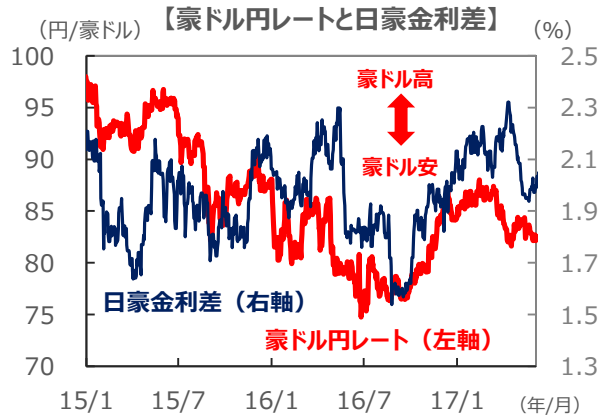
今後の展開 豪ドルは底堅い展開へ

- 年後半に向け、豪州の成長率加速が見込まれること、日銀の緩和姿勢に対し、豪州準備銀行は中立維持の姿勢を継続すると予想されること、豪州の国際収支が改善基調にあることなどから、今後、豪ドルの対円相場は底堅く推移する見込みです。

(%) 【実質GDPと需要項目別の寄与度】



(注1) データ期間は2016年4-6月期～2017年1-3月期。総固定資本形成＝設備投資＋住宅投資。純輸出＝輸出－輸入。
 (注2) 実質GDPは前期比。需要項目はGDP成長率に対する寄与度。
 (出所) Datastreamのデータを基に三井住友アセットマネジメント作成



(注1) データは2015年1月2日～2017年6月7日。2017年6月7日は日本時間13時時点のレート。
 (注2) 金利差は豪州－日本。金利はともに3年国債利回り。
 (出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ここもチェック! 2017年6月 6日 豪州の金融政策は9会合連続の据え置き（2017年6月） 2017年5月24日 鉄鉱石・石炭の価格と豪ドルの動向

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。